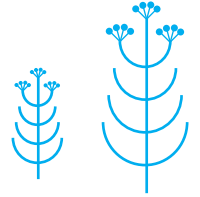


まちなかに油田を!

「菜の花プロジェクトみのお」の挑戦



坂本 洋(菜の花プロジェクトみのお)

◆菜の花プロジェクトって?

てんぷら油などの「廃食油からディーゼル燃料を作る?」という夢のようなプロジェクトが数年前から静かに進行している。1980年代に滋賀県で琵琶湖を守るために、廃食油を回収してせっけんを作る運動が広がった。しかし無リン洗剤の開発によりせっけんが売れなくなり、回収した廃食油のドラム缶が山積となった。そのピンチを救ったのがBDF(バイオ・ディーゼル・フュエル)つまり軽油に代わるトラック燃料としての利用であった。

ドイツで考え出された生成法を取り入れ、廃食油からディーゼル燃料作りが始まった。ミニプラントも製造され、滋賀県も応援し、「菜の花プロジェクト」として全国に発信された。各地でそれぞれの取り組みが広がり、06年末現在、NPOや自治体、企業により、全国150箇所で行われている。

静岡県トラック協会はトラック燃料として積極的に使用。排ガスは軽油より圧倒的にクリーンで、かすかにてんぷらのおいがる。京都市では地球温暖化防止に向けて、全市域で廃食油回収システムを作り、BDF精製プラントを導入し、ごみ収集車や市バスの燃料に使用している。

◆菜の花栽培から始めよう

さらに廃食油の回収に止まらず、なたねを休耕田に撒き、菜の花畑として見て楽しむ。そこで取れた菜種油でてんぷらを揚げ、学校給食などに利用し、廃食油は回収してBDFを作るという「菜の花エコプロジェクト」が全国各地に静かに広がっている。

菜の花は日本の原風景、安い外国産なたねに押され、途絶えた国産なたねを復活し、菜の花畑を景観資源として町おこしに活用したり、環境教育として子どもたちと一緒に栽培したりする取り組みが行われている。昨年からは大阪府が遊休農地で菜の花を栽培し、なたねから直接BDFを作り、阪急バスを走らせようという取り組みをスタートさせた。石油はやがてなくなる資源だが、菜種油は再生可能なエネルギー。ドイツでは温暖化防止のため、国を挙げて「畑の油田」として菜の花栽培が行われている。

◆カーボンニュートラル

化石燃料を燃やせばCO₂は増加するばかりだが、植物は成長の過程で空気中のCO₂を吸収しており、燃やしてもそれを吐き出すだけだから増加しない。これをカーボンニュートラ



ルという。ここに着目してバイオ燃料が注目を集めている。全ての使用量をまかなうことはできないが、ガソリンや軽油に5%、10%混ぜると、その分だけ化石燃料の使用を削減できる。さらにバイオ燃料は有害物質や黒煙をほとんど出さないので、排気ガスもきれいになる。

◆「菜の花プロジェクトみのお」

「菜の花プロジェクトみのお」は2005年8月発足。早速箕面市止々呂美地区の遊休農地20アールで、農家と協力してなたね栽培を始めた。関心のある市民や学生40人ほどが参加して、慣れない農作業に汗を流した。種まき、まびき、草抜きを経て、2006年4月には黄色い菜の花畑を実現。菜の花祭りを行った(写真)。

6月にはなたねを収穫、搾油して止々呂美ブランドのなたね油を製造、てんぷらなどに使った後、BDF燃料にする予定だったが・・・?

このほか、小学校の環境教育に協力して、BDFで走るゴルフカートに試乗するイベントを行い大好評を得た。てんぷら油で車が走る。実際に運転した子どもたちの目は輝いていた。

◆課題は?

市街地に菜の花畑を実現できればアピール効果は大きい。現在、協力農家を探している。さらに京都市のように、全市域で廃食油回収システムを作り、BDFで全ての公用車を走らせたい。私たちが活動する箕面市の市長は環境が専門だけに可能性はある。